

はじめに 人生、午後3時からが面白い

サラリーマン文化芸術振興会 会長 大八木 元

サラリーマン文化芸術振興会（略称サラ文）が発足した20年前（1992年）には会員の多くが現役のサラリーマンで、一週間のうち、ウィークデイは会社勤め、土曜、日曜に自分の趣味の時間を持つという生活を送っていました。仕事を“俗”、趣味を“仙”という漢字で表せば、一週間は“5俗、2仙”ということになります。

1997年に出版した本のタイトルは「サラリーマン左手の法則」。

人差し指が“仕事”中指が“趣味”で、そこから生ずる親指方向の力を“生きがい”と捉えた新しい理論でした。サラリーマンが仕事やその成果ばかりを追い続けるのではなく、一方で趣味を楽しみ、広げ、深めていくなれば、より強力な生きがいが発生して人生がもっとも豊かになるという理論です。

仕事も一生懸命やることが前提という、現役サラリーマンの誰にでも受け入れられやすい“優等生的”理論でした。

20年経った今、多くの会員は“7仙”です。勿論まだまだ“俗”の世界で頑張っているメンバーも沢山いますが、現在サラ文では“7仙”がますます元気に、豊かに人生を楽しんでいます。定年を迎えたサラリーマンにとって“仕事”は必ずしも“生きがい”の絶対的要件ではなかったのです。（世の中には仕事だけが生きがいという人たちも沢山いますが）

仕事から離れて収入は減りましたが、そのかわり豊富な時間を手に入れました。現役時代にやりたくてもやれなかったことに挑戦したり（例えば平日の昼間に福祉施設へのボランティア活動を行ったり、世界一周の船旅をしたり、中には東北大震災の復旧支援にチームを編成して毎週のように出かけている会員や、第2の故郷である海外で新しい人生を送っている会員もいます）、さらには、お金をかけなくても工夫次第で何とでもなる（例えば新本を買うのではなく図書館を利用する、サラ文の“沙羅文庫”を利用するなど）という具合です。

会の発足当時、私たちは“個々の生き方に未来あり”“企業戦士から悠々人へ”とのスローガンを掲げましたが、今新たに“人生、午後3時からが面白い”と宣言致します。

この「20周年記念文集」には100名余の会員が、それぞれどのように心豊かな人生を送っているのかのレポートが収められています。

私たちは、20年間の活動の中で蓄積してきた“午後3時からの楽しみ方”にさらに磨きをかけ、今後の高齢化社会に一石を投じたいと考えます。